



ArcGISを用いた受益調書作成システム作成事例

(1/2)

今回紹介する団体：S村、水土里ネット北海道

取組概要

内容：水土里情報利活用促進事業で整備した農地筆データを元に、ArcGIS(ArcMap)を使用して道営農業農村整備事業等の事業量等のとりまとめおよび受益調書を自動的に作成するシステムの整備

経緯：水土里情報システム参加団体であるS村では道営農業農村整備事業の立ち上げにあたり、受益者からの要望工種・箇所・量の聞き取り結果をExcel調書にまとめていたが、地番ベースのとりまとめにおいて多大な労力を要していた。事業量、箇所の要望変更の度に調書の修正が入ること、また要望内容を地図上に展開し視覚的な運用を行いたいことから、GISデータ化の要望があった。

本会から、毎月更新される地番データをベースに調書の整合性を図り、GIS上で工種、面積等の要望内容の検索、図面等の視覚的な管理も可能なArcGISでの運用、さらに蓄積したGISデータから受益調書(Excel)を自動作成する仕組みを提案し開発に至る。一定程度の開発を終え、任意工種への対応等細部調整を現在進行中。

【受益調書作成システム画面】

ArcGIS地図画面

②地番データから必要項目が自動抽出

③追加情報を選択or入力

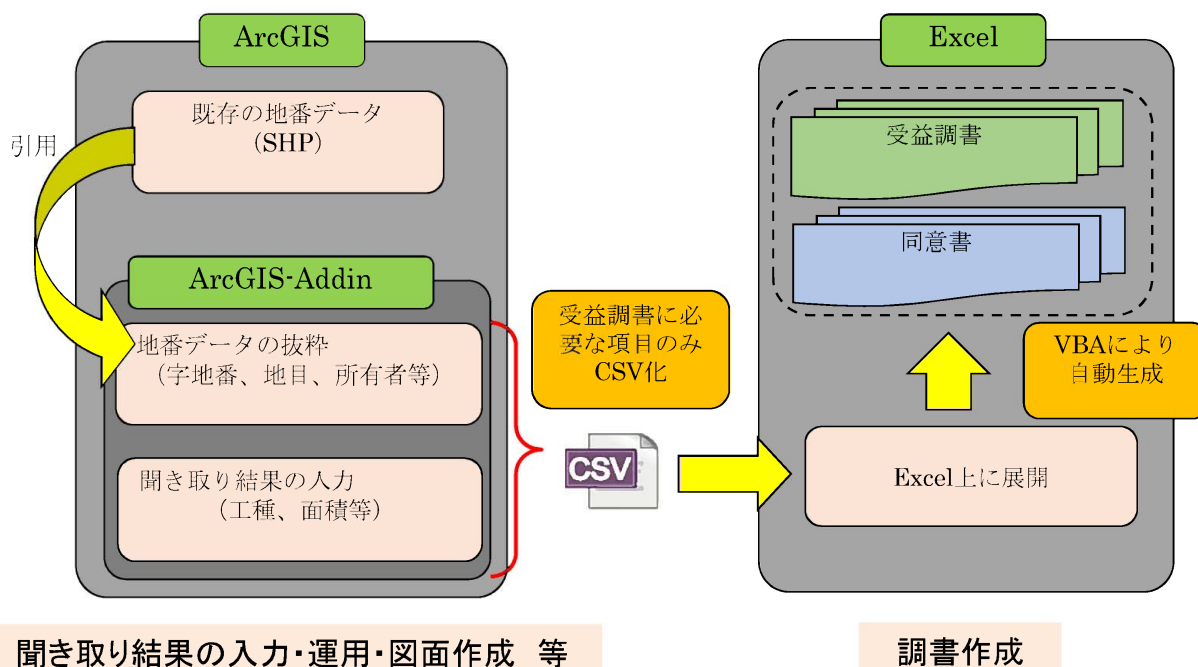
①図形選択

簡易入力用Add-inツール

- 要望情報を地番データをベースに簡易入力
- GIS標準機能での運用(編集、検索、図面作成 等)
- 調書作成用CSV作成

システム構成

【受益調書作成システムの全体構成】



期待される効果

受益調書とりまとめの効率化

- 調書データ(聞き取りデータ)入力作業の省力化
- 受益者情報、工種情報のマスタ化により修正作業の省力化
- 運用データ、図面、調書等の元データ一元化により、データ間の整合性向上

今後の展開

- モバイルGISを使用した聞き取り作業の実現
- ArcGIS上での部分施工対応(図形のみ未対応)
- 計画業務等への幅広い利活用

■お問い合わせ先

北海道土地改良事業団体連合会（水土里情報センター） 011-206-9134(直通)
 農林水産省農村振興局整備部設計課計画調整室(細川、久貝) 03-6744-2201(直通)